

いつてみたい

音楽の名所



フォルクスオーパー

観ているうちに舞台と一緒に泣き笑い——
気取らない雰囲気のしやれた舞台が待っている
ウィーン市民の誇るオペレッタの殿堂。

オーストリア ウィーン

Austria Wien

ろ、フォルクス（市民）のための劇場だからだ。

チケットの値段は比較的リーズナブルで、ドイツ語による楽しいオペレッタやミュージカルなどを気軽に楽しむことができるので、地元の人や近郊か

らバスを仕立てて団体でやってくる人が多い。年齢層も比較的高く、お馴染みのストーリーを舞台と一体になって楽しむという、古き良き時代の伝統が守り継がれている歌劇場なのである。

今から25年以上前の1979年、ウィーンからフォルクスオーパーが初来日して、日本にオペレッタ旋風が巻き起こったことがある。初めて本場のオペレッタを観た人たちは、そのしやれた楽しい舞台と優雅なウィнна・ワルツにすっかり魅了されてしまったのだ。以後同オペラ団は毎年のように来日し、日本にオペレッタ愛好熱はすっかり定着した感がある。



劇場内部

そのウィнна・オペレッタの殿堂が、ウィーン・フォルクスオーパーである。街の中心から少し離れたワーリンガー・シュトラッセにその建物はある。外観は白く小ぢんまりしたお城のよう。リング通りに面して威容を誇るシユターツオーパー（国立歌劇場）とは違って、親しみやすい印象だ。なにし



フォルクスオーパーの外観 ©Dima Dimov/Volksoper Wien

「こうもり」や「メリー・ウィドウ」など定番演目のほか、「ウィーン氣質」や「ヴェネツィアの一夜」「小鳥売り」など、オペレッタの本場ならではの人氣演目も上演されている。また「サウンド・オブ・ミュージック」や「マイ・フェア・レディ」などのミュージカルもドイツ語で上演され、新しい聴衆で賑わっている。
なにしろここ数年は、オペレッタだけでなく、モーツァルトやヴェルディに加え、「ソフィーの選択」などの新作オペラやワーグナーまで斬新な演出

で上演し、若い層を獲得する方向へと運営方針の変換を図ってきた。この大胆な変身には賛否両論があるようだが、ファンやマスコミが注目する歌劇場に変わりつつあることは確かかなようだ。保守的といわれるウィーンでも、新しい時代の波は確実に押し寄せているのである。

じつはいまこの劇場では、日本人ソプラノ、中嶋彰子なかじまあきこが主役として活躍し、大人気になっている。すでに斬新な解釈による「椿姫」や「愛の妙薬」などで主役を歌って人気になっており、最近では「ルクセンブルク伯爵」の新演

出で、歌姫のアンジェール・ディディエ役を歌い大反響をよんだ。

このフォルクスオーバーの建物が設立されたのは1898年で、最初は庶民のための娯楽施設として演劇が上演されていたという。1903年からはオペレッタもプログラムに取り入れられ、市民の歌劇場として再スタートを切った。作曲家のアレクサンダー・ツエムリンスキーが楽長だった時期（1906〜11）には「トスカ」や「サロメ」のウィーン初演もおこなわれている。これまでに、歌手のカール・デシヒやエヴァーハルト・ヴェヒターな

どが総監督をつとめ、歌手では日本人に大人気のハラルド・セラフィンやメラニー・ホリディなどが活躍した。



今シーズンからは、モーツアルト指揮者として名高いレオポルド・ハーガーが首席指揮者に就任し、2006年のモーツアルト・イヤーに向けて、新演出による「魔笛」のほか、「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」など、モーツアルト作品が集中的に上演されることになっている。

ウィнна・オペレッタの伝統を守る使命を担ったフォルクスオーバーだが、その基本を踏まえつつも新しい試みに挑戦し、時代に即応した歌劇場として歩み始めている。

（石戸谷結子）



ヨハン・シュトラウス2世の「こうもり」第1幕から。
小間使いのアデーレ（後ろ）と、奥方のロザリンデ。

©Dimo Dimov/Volkoper Wien

ヨハン・シュトラウス2世の「ヴェネツィアの一夜」に出演した中嶋彰子（写真中央。アンニーナ役）。第3幕の、ウルビーノ公爵（左）、チボレッタ（右）と三重唱「サン・マルコの鳩」を歌うシーン。©Volkoper Wien

Information

【所在地】Wiener Volksoper, Währingerstrasse 78, A-1090 Wien
 【アクセス】市電40、41、42番、Währinger Gürtel下車。バス40 A。
 【シーズン】9月中旬〜6月末まで。
 【チケットの取得】チケットの先売り：9月1日からは、翌年1月31日までのチケットを、11月1日からは翌年6月30日までのチケットを、9月の公演は6月1日からチケットを発売開始。フォルクスオーバーのチケット販売窓口：月〜金曜日は8:00〜18:00、土・日曜日、祝日は9:00〜12:00。また、劇場連盟窓口、オペラ座アーケードでも販売。時間は同上。当日劇場窓口は、開演1時間前から販売。郵送、インターネット、電話でも受けつける。
 郵送の場合：Volkoper Wien, Stadtbüro, Goethgasse 1, A-1010 Wien, Austria/fax: +43-(0)1-51444-3669 インターネット・アドレス：http://www.volkoper.at/content.node2/home/（公演の3週間前までに）電話予約：月〜日曜日 10:00〜21:00。tel: +43-(0)1-5131513
 支払いはクレジットカードのみ。
 ホーム・ページ http://www.volkoper.at/
 なお、フォルクスオーバーは、2008年5〜6月に9年ぶりに来日の予定。「こうもり」「マルタ」「ボッカチオ」の3公演が予定されている。招聘はNBS日本舞台芸術振興会。